平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

整理番号	5	ー	21

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	居宅老人交通費助成事業					
評価者	担当課名		保健福祉課	担当係名		社会福祉係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	山 崎 佳 之		氏名	渡 部 憲 一
事業の概要	居宅において生活を営む老人の外出や通院等に要する交通費を助成する。					

全体計画	/単年度繰返
（平成 20 年度～ 24 年度）	
事業費 国・道支出金	千円
地方債	9,000 千円
その他	千円
一般財源	16,980 千円
事業費計	25,980 千円

実施方法	■	直営		民間委託		その他（　　）
第５期総合計画（前期）	■	登載事業		非登載事業	優先度	B

事業の位置付け	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～
	基本施策	7	高齢者支援の充実
	単位施策	2	生活支援の充実
	事務事業の種類	■	自治事務　□ 法定受託事務
	その他計画・根拠等		居宅老人交通費助成要綱、高齢者保健福祉計画

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	4,500 千円	4,500 千円	4,500 千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額（一般財源）	4,543 千円	4,449 千円	14 千円	175 千円	100 千円
	合計	4,543 千円	4,449 千円	4,514 千円	4,675 千円	4,600 千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	高齢者
【抱える課題やニーズは】	高齢者が健康で生きがいのある生活が送れるよう、各種高齢者福祉サービスの充実など総合的な支援が求められている。
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	高齢者の生きがいづくり、生活支援、社会活動への参加を促した。
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	外出する機会が少なくなりがちな高齢者に対して、外出するきっかけを提供し、生きがいづくりや健康増進を図る。

望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）

交通費助成券の利用率

指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
① 交付した助成券の枚数÷利用された助成券の枚数＝助成券の利用率	目標年度	平成23年度
	目標値	11,142 枚
	実績値	8,659 枚
	達成度	77.7 %
②	目標年度	
	目標値	
	実績値	
	達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
①助成券の交付	対象者からの申請に基づき、審査を行い、交通費助成券を交付した。
②交通費助成券利用分の支払い	交通費助成券利用分（基本料金相当）を第一ハイヤー株式会社へ支払った。

3 事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	自家用車を持たない町民の移動手段として、町内を走るハイヤーは最も利用しやすい手近な交通手段であり、普段の通院や買い物などに要する利用料金の一部を助成することは、交通弱者への移動手段の支援と負担軽減のため必要性が高い。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 □達成 ■ほぼ達成 □下回る	助成券の交付を受けてから亡くなられた方や、転出された方もいるため、利用率は100%ではないが、当該事業を実施したことで、高齢者の外出時における利便性が向上され、健康増進や生きがいづくりに繋がる手段として有効である。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 □事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 ■その他	前年度の申請者については、予め申請書を作成しておくことで、申請書を記載する時間と待ち時間が短縮できた。今後も事務処理の工夫をしながら経費節減に努めていく。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	必要な条件を具備していれば、全ての申請者に交付されることから公平である。

4 総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
急激に進む高齢化社会において、高齢者一人一人が健やかに暮らしていくための有効な手段と思われ、今後も計画どおり事業を進めることが適当である。	同左	

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持	**継続／現状維持**	
今後も助成を継続することで、外出に際しての「足」が確保しやすくなり、高齢者にとって住みよい環境の提供と、安心して地域で暮らせることから現状維持で継続する。	同左	

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5 その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）